

科研費の年度間繰越

・科研費は、平成15年度から繰越明許費として登録されました。

＜平成15年度～平成17年度まで認められていた繰越事由＞

外的な要因(地震、機器の故障など)が発生し、やむを得ず翌年度に研究を実施せざるを得ない場合

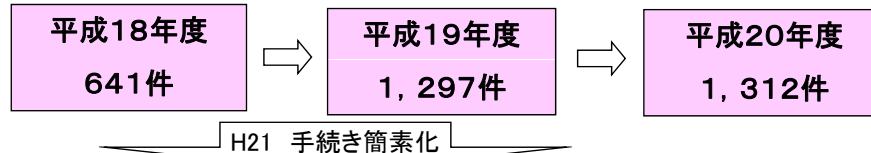
繰越実績:



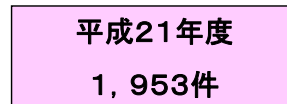
＜平成18年度から認められるようになった繰越事由＞

外的な要因に限らず、予期し得なかった研究内容の進展・遅れにより、研究計画の変更が必要になった場合

繰越実績:



繰り越し申請に必要な提出書類は、1枚のみです。



研究費の効果的・効率的使用のため繰越の適切な活用が重要

年度間繰越手続のスケジュール

【当該年度】

- 6月中旬 交付決定
- 随時～(3月) 繰越相談(研究者→機関担当者)
- 随時～(3月) ※繰越事前相談(機関担当者→文科省)

※(任意)繰越要件に合致するか判断が困難な場合

【翌年】

- 3月1日 繰越申請×切(研究機関→文科省)
- 3月 繰越申請要求・承認(文科省↔財務省)
- 3月31日 繰越承認通知
(文科省・JSPS→研究機関)
- 4月以降 繰越分の返納・送金
(文科省・JSPS↔研究機関)

55

繰越の申請に必要な書類

参考【記入例】

- ①キ 計画に関する諸条件
(新たな知見の発見)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 11111 研究機関名: ○○大学
 課題番号: 221111111 繰越(翌債)承認要求額: 1,300,000 円 (内訳: 直接経費 1,000,000 円 ・間接経費 300,000 円)
 研究課題名: ○○の研究

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> ○ ○○の移転モデル構築 (H22.4～H22.7) ○ ○○の治療実験 (H22.8～H22.11) ○ ○○細胞活性の評価 (H22.12～H23.3) ○ 研究成果とりまとめ (H23.3)	<変更後の計画> ○ ○○の移転モデル構築 (H22.4～H22.7) ○ ○○の治療実験 (H22.8～H22.11) ○ ○○細胞と○○細胞活性の評価 (H22.12～H23.6) ○ ○○細胞活性の評価 (H23.7～H23.10) ○ 研究成果とりまとめ (H23.10)	(研究概要) ※2～3行程度 平成22年11月までに人工○○による○○の治療実験を終え、平成23年3月までに人工○○の○○免疫能を○○細胞活性によって最終評価する予定であった。
		事由(注) 記号等 ①キ 計画に関する諸条件 (新たな知見の発見) (①・及び⑥ウの場合は、具体的な内容を記載) ※2～3行程度 平成22年11月、⑥ウの実験過程において、○○細胞には○○の性質がある可能性が判明したので、それを検証するために○○細胞活性の評価を行う必要が生じた。
繰越事由の発生した時期 平成22年12月	補助事業の完了時期 平成23年10月30日:7ヶ月延長	

①計画に関する諸条件
(新たな知見の発見)
(研究協力者の確保難)
(研究協力機関の事情)
(装置の開発遅延)
(機器の故障)
(その他)

⑥資材の入手難
(マウス等実験動物の確保難)
(資材・試料・資料の入手難)

56